

シネマの冒険 闇と音楽 2017

Silent Film Renaissance 2017

2017年10月17日(火) - 10月22日(日)

会場：東京国立近代美術館フィルムセンター 大ホール (2階)

弁士の語りやピアノ伴奏と共に無声映画を上映

いつもお世話になっております。無声映画の素晴らしさを、音楽や弁士の語りとともに体験していただく恒例の企画「シネマの冒険 闇と音楽」を今年も開催いたします。

今回は、フィルムセンターが所蔵する作品の中から、上映機会の稀な珠玉の日本映画8本(6プログラム)を上映し、経験豊かな活動弁士や音楽家の方々にライブパフォーマンスをしていただきます。

決して無音ではなかったサイレント映画の体験を現在に継承すると共に、多方面で活躍中のパフォーマーたちによる創造的な解釈もお楽しみいただけます。この機会にぜひご周知いただきますようお願いいたします。



殉教血史 日本二十六聖人

【開催概要】

企画名：シネマの冒険 闇と音楽 2017 Silent Film Renaissance 2017

会場：東京国立近代美術館フィルムセンター 大ホール (2階)

定員：299名 (各回入替制)

会期：2017年10月17日(火) - 10月22日(日)

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

料金：一般520円／高校・大学生・シニア310円／小・中学生100円／障害者(付添者は原則1名まで)、キャンパスメンバーズは無料

★弁士・伴奏付き上映の回

一般1,050円／高校・大学生・シニア840円／小・中学生600円／障害者(付添者は原則1名まで)は無料／キャンパスメンバーズ料金あり(教職員500円、学生400円)

URL: <http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/yami2017-10>

【本件に関するお問合せ】東京国立近代美術館フィルムセンター 事業推進室 白鳥・大澤・富田

TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 nfc-pr@momat.go.jp

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

【上映作品および出演者】(8本・6プログラム)

1. 10月17日(火)7:00pm ★弁士・伴奏付き上映回 10月21日(土)12:00pm

『慈悲心鳥』(1927、日活大將軍、溝口健二監督)

2分の断片のみが現存。

『東京行進曲』[日活グラフィック版](1929、日活太秦、溝口健二監督)

22分の短縮版。

『ふるさとの歌 “水車小屋の子”改題』[英語字幕付](1925、文部省=日活関西教育部、溝口健二監督)

溝口の現存する最古の作品。2015年に作製した染色/調色版を初めてお披露目。

かたおか いちろう

弁士：片岡 一郎

2002年澤登翠に入門。これまで説明した無声映画は洋・邦・中・アニメ・記録映画と約350作品。『Our Pet』『私のパパさんママが好き』といったロストフィルムを発掘。行定勲監督『春の雪』や奥田民生のパンフレットDVDにも弁士として参加している。

かみやあゆみ

伴奏：上屋安由美

名古屋市出身。桐朋学園大学作曲科卒業、同大学院修了。「いちむじん」など同年代アーティストのCD編曲を担当。2012年より無声映画の楽士として活動開始、ポルデノーネ無声映画祭、東京国際映画祭、タイ無声映画祭等に出演。



『ふるさとの歌 “水車小屋の子”改題』

2. 10月17日(火)3:00pm 10月22日(日)4:30pm ★ピアノ伴奏付き上映回

『十字路』[英語インタータイトル版](1928、衣笠映画聯盟=松竹下加茂、衣笠貞之助監督)

衣笠貞之助が『狂った一頁』に続いて発表した野心的な時代劇。姉弟の運命が強烈な陰影と斬新なカメラワークによって描かれる。

やなしたみえ

伴奏：柳下美恵

武蔵野音楽大学ピアノ専攻卒業。映画生誕100年記念上映会でデビュー以来、国内・海外で活躍。欧米スタイル(音楽伴奏)の無声映画伴奏者は日本初。洋画・邦画を問わず全ジャンルの伴奏をこなす。2006年度日本映画ペンクラブ奨励賞受賞



3. 10月18日(水)3:00pm 10月20日(金)7:00pm ★ピアノ伴奏付き上映回

『明日天気になあれ』(1929、松竹蒲田、島津保次郎+西尾佳雄監督)

東京市教育局主催の児童映画脚本懸賞一等当選作の映画化。子どもたちの交流を温かな視線で描く。

やなしたみえ

伴奏：柳下美恵



4. 10月19日(木)3:00pm 10月21日(土)4:30pm ★弁士・伴奏付き上映回

『殉教血史 日本二十六聖人』(1931、日活太秦、池田富保監督)

1597年に長崎で起きた「二十六聖人の殉教」を映画化した大作にして異色作。

さわとみどり

弁士：澤登 翠

1972年故松田春翠に入門。第一線で活躍する弁士として国内外の公演を通して幅広い世代に活弁の魅力を伝えている。活弁の継承者としての活動が評価され文化庁映画賞他数々の賞を受賞している。また、本年3月には松尾芸能賞特別賞を受賞した。

ゆあさ

伴奏：湯浅ジョウイチ

1987年、東京国際映画祭でD・W・グリフィスの『国民の創生』の楽師を務めて以来、無声映画用音楽の復元や作・編曲等を行い、後に和洋楽団「カロード・モノトーン」を結成。近年はヨーロッパツアーも行う等、精力的に活動している。

すずきまきこ

伴奏：鈴木真紀子

桐朋学園大学音楽学部卒。フルートを峰岸壮一氏に師事。和洋楽団カロード・モノトーン主要メンバー、歌手 芹洋子のアコースティックバンドメンバーとして活動。また、順天堂大学交響楽団、東洋英和女学院でフルート指導にあたる。



5. 10月18日(水)7:00pm ★ピアノ伴奏付き上映回 10月22日(日)12:00pm

『榮冠涙あり』(1931、不二映画、鈴木重吉監督)

当時人気絶頂の青春スター・鈴木傳明らが松竹蒲田を脱退して設立した不二映画の第1作。大学ポータ部の学生たちの友情とロマンスが名カメラマン三浦光雄によってとらえられる。

あまいけほだか

伴奏：天池穂高

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院修了。2003年、フィルムセンター「小津安二郎の藝術」にて、初めてサイレント映画の伴奏を担当。作編曲活動に加えて、バレエのレッスンピアニストとしても活動している。



6. 10月19日(木)7:00pm ★ピアノ伴奏付き上映回 10月20日(金)3:00pm

『熊の出る開墾地』(1932、不二映画、鈴木重吉監督)

鈴木傳明の不二映画での第2作で、日露戦争直後の北海道の農村を舞台にした骨太な復讐劇。

こばやしひろと

伴奏：小林弘人

東京藝術大学音楽学部作曲科卒、同大学院修了。2004年東京国際映画祭に出演。東京国立近代美術館フィルムセンターのほか、神保町シアターに定期的に出演している。東京藝術大学、東京音楽大学、洗足学園音楽大学講師。

